

木曾揖斐兩川間關門設立請願書

伊藤文庫

399



木曾揖斐兩川間閘門設立ノ儀ニ付請願

三重愛知及ヒ岐阜三縣下人民何其等謹テ帝國議會衆議院ニ奉請願候
 木曾揖斐及ヒ長良ノ三川ハ全國中著明ノ大河ニシテ古來其ノ沿岸地
 方ハ勿論其ノ他一般ニ直接又ハ間接ニ其ノ利害ヲ受クルト甚ダ少ナ
 カラザル事ニ御座候即此ノ河線ハ從來河幅狹隘ニシテ一朝大雨アル
 ニ方テハ洪水忽チ汎濫シ人畜爲メニ溺流シ其ノ慘况名狀スヘカラザ
 ルモノ往々有之候ニ付明治十九年政府ニ於テ此ノ三大川改修ノ儀ヲ
 決定セラレ去ル明治二十年ヨリ其ノ工事ヲ起シ來ル明治三十五年ニ
 至ル十六ヶ年間ノ繼續事業ト相成候而シテ其ノ設計ハ大体河線ノ幅員
 ナ擴張シテ洪水ノ汎濫ヲ豫防シ又各川ヲ分流セシメテ一川ヨリ起ル
 災害ヲ他川ノ沿岸ニ波及セシメサルヲ目的トセラレタルカ爲メ會
 テ木曾揖斐ノ兩川間ニ連絡セシ青鷲江及ヒ油島喰違ノ三江共閉鎖

セサルヲ得サルニ至リ其ノ青鷺及ヒ鰻江ノ兩江ハ既ニ此ノ工事ノ爲
メニ壅塞セラレ目下油島喰違ノ一江ヲ存在致居候得共是亦畢竟數年
ヲ俟タスシテ閉鎖セラルヘキ筈ニ有之候

抑モ三重縣桑名郡桑名町ハ僅ニ人口壹万九千餘ヲ有スル一小市街ニ
過キス候得共今ヨリ百餘年前即天明六年ヨリ米穀市場ヲ設立シ爾來
連綿繼續シテ現今ノ米穀取引所ト相成リ又近來御料局貯木場ヲ設置
セラレタルカ如キハ是レ皆桑名ノ位置東ハ木曾及ヒ揖斐ノ大川ヲ控
ヘ南ハ伊勢海ニ臨ミ河海共ニ漕運ノ便ニ富メルヨリ致シタル所ト奉
存候

然ルニ前段ニ陳述仕候通り三大川改修工事ノ爲メ曾テ木曾揖斐ノ兩
川間ニ連絡セシ青鷺鰻江及ヒ油島喰違ノ三江共閉塞セラレ忽チ水運
ノ利便ヲ杜絶セラル、場合ニ立至リ候即從來木曾川筋ヨリ桑名ニ輸

入セシ米穀木材及ヒ其ノ他ノ貨物ハ一切同所ニ輸入スルヲ能ハサル
ト相成候是レ獨リ桑名地方ノ不利ナルノミナラズ木曾川ノ沿岸ニ
住居スル愛知岐阜及ヒ三重三縣下ノ人民殊ニ木材ニ關シテハ遠ク信
濃飛驒及ヒ美濃地方ノ人民ニ至ルマテ其ノ障害ヲ受クルト甚タ少ナ
カラス又此ノ事タル間接ニハ社會公共ノ利害ニ關係シ遂ニ國家ノ經
濟上ニモ影響センヲ窺ニ憂慮罷在候

就テハ政府ニ於テ從來木曾及ヒ揖斐ノ兩川間ニ連絡セシ青鷺鰻江及
ヒ油島喰違ノ三江ニ國庫ノ支辨ヲ以テ開門ヲ御設置被成下日常直接
ニ關係ヲ有スル三重愛知及ヒ岐阜三縣下ノ人民ヲシテ從前ノ如ク船
舶木材及ヒ其ノ他ノ物貨漕運上ノ利便ヲ回復セシメラレ候様御評決
被成下度奉願上候尤開門ノ設立ハ學理上ノ研究ト實際上ノ經驗ニ於
テ決シテ政府ニ於テ三川改修ノ目的トセラレタル各川分流ノ主義ヲ

妨害スベキモノニ無之其ノ費用ノ如キモ概算總計金七八万圓ニ過キ
 スト奉存候且又青鷺江及ヒ油島喰違ノ三江ハ各三十餘丁乃至五十
 餘丁ヲ隔絶シ其ノ兩端青鷺江ト油島喰違江ノ全距離ニ於テハ二里餘
 丁ニ涉ル場所ニ有之候ニ付開門ハ必ス三江共ニ設置相成候様致度奉
 存候

抑モ本件ハ社會ノ公益上ニ一大關係ヲ有スル事ニ有之就中木曾川沿
 岸住民ノ休戚ニ至大ノ影響ヲ及ホスベキ事柄ニ御座候如何トナレバ
 若シ此ノ木曾揖斐ノ兩川間ニ連絡セル青鷺江及ヒ油島喰違ノ三江
 共全ク閉塞セラレハ木曾川ノ沿岸ニ住居シ祖先已來數百年間青
 鷺江及ヒ油島喰違ノ三江ノ水利ニヨリテ生業ヲ營ミ來リ候三重愛知
 及ヒ岐阜ノ三縣下ニ於ケル數十個町村ノ住民其ノ他信濃飛驒及ヒ美
 濃地方ニ於ケル無慮數百個町村ノ人民ハ忽チ生業ヲ失ヒ活路ニ窮ス

ルニ至ルヘク候得ハ今日ハ實ニ私共ノ安危ノ決スル所ニシテ容易ナ
 ラサル秋ニ際會罷在候次第ニ御座候

故ニ某等ハ一日モ之ヲ忽カセニスルヲ能ハサル場合ニ御座候間何卒
 出格ノ御詮議ヲ以テ本願御採擇ノ上速ニ政府ニ御執送被成下度別紙
 實況陳述書及ヒ圖面ヲ副ヘ此致奉請願候頓首々々謹言

明治二十六年十二月 日

請願人 連 署

宛

右文章ノ冒頭ト結文ハ議院ニ出タス分ト政府ニ出タス分ト各多少ノ文例ヲ異ニセリ

木曾揖斐兩川間開門設立請願ニ付實現陳述

三重縣桑名郡桑名町ハ人口一万九千餘ヲ有スル市街ニシテ東ハ木曾揖斐ノ兩大川ヲ控ヘ南ハ伊勢海ニ臨ミ頗ル河海漕運ノ便ニ富ミタル一要地ナリ是ヲ以テ愛知岐阜及ヒ三重ノ三縣下ヨリ産出スル米穀并ニ信濃飛驒及ヒ美濃地方ヨリ産出スル木材其ノ他ノ物貨ハ古來皆此ノ地ニ輻湊シテ市ヲナシ而シテ後各地ニ轉輸販賣スルヲ以テ常トセリ殊ニ天明六年即今ヲ距ル百餘年前ノ昔日ヨリ桑名ニ米穀市場ヲ設置シ又近來此ノ地ニ御料局貯木場ヲ設置セラレタルカ如キ皆是レ漕運轉販ノ利便アルヨリ致セル所ノ結果ナリ

而シテ木曾揖斐ノ兩川ハ其ノ間數十丁ノ陸地ヲ隔テ、並行セルガ故ニ桑名ハ直接ニハ揖斐ノ一川ニ沿フノミナリト雖モ從來木曾川ト揖斐川トハ青鷲鰻江及ヒ油島喰違ノ三江ニヨリ連絡セルヲ以テ桑名ハ兩

川同一ニ其ノ水利上ノ利便ヲ得タリ今左ニ其ノ三江中畿江ノ一江ヲ通過シテ木曾川ヨリ揖斐川ニ移リ以テ桑名ニ輸入セシ船貨等ヲ掲ケ

- 一 愛知縣下立田ヨリ 桑名ヲ距ル二里半 米六艘四分 人〇艘四分 雜貨七艘八分 計十九艘六分
- 一 愛知縣下前ヶ須ヨリ 桑名ヲ距ル二里 米六艘八分 人十七艘 雜貨七艘四分 計四十一艘二分
- 一 愛知縣下津島ヨリ 桑名ヲ距ル三里 米一艘四分 人三艘二分 雜貨二艘二分 計六艘八分
- 一 愛知縣下佐屋ヨリ 桑名ヲ距ル二里余 米五艘 人一艘六分 雜貨三艘四分 計十艘
- 一 愛知縣下北方ヨリ 桑名ヲ距ル十里 〇 雜貨〇艘六分 計〇艘六分
- 一 岐阜縣下笠松ヨリ 桑名ヲ距ル十里 米四艘 人二艘 雜貨二艘八分 計八艘八分
- 一 岐阜縣下日原ヨリ 桑名ヲ距ル四里 米一艘六分 人四艘 雜貨〇艘四分 計六艘
- 一 岐阜縣下黒瀬ヨリ 桑名ヲ距ル八里 〇 人〇艘二分 雜貨一艘 計一艘二分
- 一 愛知縣下森津ヨリ 桑名ヲ距ル二里 米〇艘二分 人一艘六分 雜貨〇艘二分 計二艘

- 一 愛知縣下狐地ヨリ 桑名ヲ距ル二里半 〇 〇 雜貨〇艘六分 計〇艘六分
- 一 三重縣下加路戸ヨリ 桑名ヲ距ル三十丁 米一艘八分 人三艘 雜貨一艘四分 計六艘二分
- 一 三重縣下段ヶ須ヨリ 桑名ヲ距ル三十丁 米〇艘六分 人二艘六分 雜貨一艘二分 計四艘四分
- 一 右ノ外各所ヨリ 〇 米一艘二分 人〇艘六分 雜貨七艘二分 計九艘

以上船舶數合計百十六艘四分但此ノ船舶ハ皆凡ソ八十石積ヨリ四十石積マテヲ通常トス最小ノモノニ至テハ稀レニ十五六石積ノモノアリ

右ハ去ル明治廿一年中ニ於ケル連續五日間ノ統計ニヨリテ平均シタル一日分ノ船舶數ナリ而シテ是レ單ニ畿江ノ一江ニ係ルモノ、ミニシテ青鷺江ハ稍ヤ之レニ及バサルモ油島嶼遠江ニ至テハ之レヨリ多數ナルモ決シテ少數ナルコトナカルベシ

又木材ニ關スル統計ハ未ダ完全ナルモノヲ得スト雖モ毎年ノ概算ハ

從來木曾川ヨリ桑名ニ輸入シタルモノ一個年間ニ民業ニ係ル分ノミ尺凡ソ拾万本ナ下ラス又御料局ニ屬スル分ハ尺凡ソ四万本餘トス而シテ此ノ價格官民ノ兩方ヲ合算セハ凡ソ拾四五万圓ヲ下サザルヲ信ス

前段各項ニ列記セルガ如ク斯クノ如ク木曾及ビ揖斐ノ兩大川ノ流域ハ單ニ其ノ沿岸ニ住居スル愛知岐阜及ビ三重三縣ノ人民カ人畜及ビ物貨ヲ運輸スルノ利便ヲ得ルノミナラズ遠ク信濃飛騨及ビ美濃ノ内地深谷ヨリ木材ヲ流下スルノ利便ヲ得ルノ大ナルヲ眞ニ測ルベカラザル所トス而シテ此ノ便益ヲ受クル所以ノモノハ此ノ兩大川ノ水利ニヨリ米穀木材及ビ其ノ他ノ物貨ヲ揖斐河口ノ桑名ニ陸揚シテ貯藏又ハ販賣ヲナスノ利便アルニ職由セスハアラザルナリ

ニ明然ル治十九年政府ニ於テ木曾揖斐及ビ長良ノ三大川改修ノ事ヲ

決定セラレ其ノ工事ノ河身ニ係ルモノハ内務省土木局ノ直轄トナシ堤防ニ屬スルモノハ愛知岐阜及ビ三重三縣ノ負擔トナシ去ル明治廿年ニ於テ其工事ヲ起シ來ル明治三十五年ニ至ル十六ヶ年間ノ繼續事業トナサレタリ而シテ其ノ設計ハ大休河線ノ幅員ヲ擴張シテ以テ洪水ノ汎濫ヲ豫防シ且各川ヲ分流セシメテ以テ一川ヨリ起ル災害ヲ他川ノ沿岸ニ波及セシメザルコトナスヲ目的トナセリ是ニ於テカ曾テ木曾及ビ揖斐ノ兩川間ニ連絡セル青鷲鰻江及ビ油島喰違ノ三江ハ閉鎖セツレザルヲ得サルニ至リ其青鷲鰻江ノ兩江ハ既ニ已ニ壅塞セラレタリ

爾來沿岸ノ住民ハ殆ト商事上ニ又民事上ニ悉ク其ノ交通ヲ遮斷セラレタルガ如キ感想ヲ懷ケリ目今尙僅ニ油嶋喰違ノ一江ヲ存在スルヲ以テ多少ノ不便ヲ忍ヒテ以テ之ヲ通過シ未ダ全ク交通ヲ遮絶スルニ

至ラスト雖此之レガ爲メ一般商事上ノ不利ヲ被ムルヲ現ニ甚ダ憂ナ
 カラズ況ヤ數年ノ後油嶋噴遠ノ一江モ亦遂ニ閉塞セラル、ノ日ニ至
 ラバ木曾流域ト桑名トノ通路ハ全ク杜絶シ彼ノ沿岸地方ヨリ産出ス
 ル米穀木材及ビ其ノ他ノ物産ヲシテ爲メニ從來ノ價格ヲ低落セシメ
 且販路ニ窮セシムルノ困難ヲ生シ延テ國家ノ經濟上ニ影響ヲ及ホサ
 ンヲ期スヘキナリ今左ニ油嶋噴遠ノ連絡江閉鎖後ニ生スベキ便否ヲ
 述ベ聊カ參考ニ供セントス

一從來桑名ニ輸入シタル米穀ハ主トシテ之ヲ東京及ビ大坂ニ向ク回
 送シタリシガ將來仍ホ之ヲ東京及ビ大坂ニ漕運センニハ先ヅ木曾
 川ヲ積下シタル船舶ヲ以テ愛知縣下熱田港又ハ三重縣下四日市港
 ニ直航セザルヲ得ザルノ不便アリ其ノ熱田ニ至ルニハ海上數里ヲ
 越ヘサルヲ得ス又四日市ニ行クニハ木曾西岸ノ堤防ヨリ伊勢海ニ

突出セル所ノ石堤千八百間ヲ周リテ航行セザルヲ得ザルノ困難ア
 リ且凡ソ船舶ハ海上用ニ適スルモノアリ河川用ニ適スルモノアリ
 而シテ其ノ兩様ニ適スルモノハ實際殆ト稀レナリ故ニ木曾川ヲ漕運
 セル船舶ヲ以テ熱田若クハ四日市マデ海上ヲ航行スルガ如キハ甚
 ダ至難ノ業ト謂フベシ

一又關西鐵道會社ノ鐵道ハ不日將ニ桑名ヲ經テ愛知縣下ニ延長シ東
 海道ノ線路ニ連絡セントスルノ舉アリ故ニ之ヲ以テ前段ノ困難ヲ
 救済スルノ機關トナサンカ蓋シ此ノ鐵道ノ線路ハ唯三重縣下ヨリ
 愛知縣下ニ貫通スルニ過キスシテ僅ニ前ヶ須ニ其ノ停車場ヲ設置
 スヘキモ未ダ之ヲ以テ木曾川兩岸ヨリ從來桑名ニ輸入シタル物貨
 ヲ運送スルノ便ニ供スルニ足ルヘシト推定スルヲ能ハス如何トナ
 レハ其ノ停車場ノ員數ノ少ナキノミナラス其ノ運賃ニ至テモ亦未

ダ舟行ノ廉便ナルニ及ハサルモノアレハナリ
 一木材ハ通例皆之ヲ筏トナシテ木曾川ヲ流下ス而シテ從來之ヲ桑名ニ
 貯藏シテ各地ノ需用ヲ待テ更ニ同所ニテ荷造ヲナシテ各地ニ搬運
 セリ且其ノ販路ハ主トシテ京坂地方ナリシカ將來仍ホ之ヲ京坂地
 方ニ致サントスルルハ先ツ木曾川ヨリ愛知縣下ノ熱田又ハ三重縣
 下ノ四日市等ニ直送セサルヲ得ス然ルニ一旦潮水ニ浸シタル木材
 ナ貯藏スルルハ其ノ保存上實ニ不測ノ損害ヲ被ムルヘシ蓋シ先年
 來御料局ノ貯木場ヲ桑名ニ設立セラレタルモ亦是等ノ事情アルカ
 爲メナリ

一前各項ニ列記セルモノ、外各種ノ貨物ニ至テモ亦前顯諸項ニ於ケ
 ルト同一ノ不便ヲ被ムルヘシ殊ニ野菜等ニ至テハ從來主トシテ三
 重縣下ノ需用ニ供シタルモノナルヲ以テ將來之ヲ桑名ニ於テ陸揚

セサルルハ到底其ノ販路ハ望テ絶タサルヲ得サルニ至ルヘシ

一從來桑名ニ陸揚シタル物貨ノ單ニ三重縣下ノ需用ニ供シタル部分
 ニ就テハ將來其ノ需用及ヒ供給共ニ不便トナリ畢竟雙方ノ爲メニ
 不利益トナルカ如キハ最モ視易キ所ノ道理ナリ

以上陳述セルカ如キ利害ノ關係アルヲ以テ愛知岐阜及ヒ三重ノ三縣
 下ニ於ケル木曾川沿岸ノ住民ニ於テハ油嶋喰違江ノ未ダ全ク閉塞セ
 ラレサル前ニ當リテ速ニ同江及ヒ既ニ閉塞セラレタル青鷲嶋江ノ三
 江ニ開門ヲ設立シテ從前ノ如ク漕運ノ便ヲ得ンヲ懇望シテ止ム能
 ハサルナリ

蓋シ開門ハ學理上ノ研究ト實際ノ經驗ニヨリテ建設スルモノニシテ
 少量ノ水流ヲ上層ノ川流ヨリ下シ以テ其ノ下層ノ水量ト平準ヲ取リ
 其ノ開閉ヲ便ニシ且其ノ開閉ノ作用ニヨリ容易ニ船舶又ハ木材等ヲ

通過セシムルノ便ヲ得ヘキ方法ナリ故ニ平素上層ト下層トノ水流ヲ
 交通セシムヘキモノニアラサレハ決シテ政府ノ三大川改修ニ於ケル
 各川分流ノ主義ヲ妨害スヘキ憂ナキハ言ヲ俟タス已ニ専門技師ノ説
 明ヲ受ケタル所ニシテ一點ノ疑義ヲモ存スルモノニアラサルナリ
 此ノ閘門ノ設立ハ請願人等ノミ企望スルニアラス凡ソ木曾川沿岸ニ
 住居スル愛知岐阜及ヒ三重ノ三縣下ノ人民ニシテ直接ニ之ニ就キ利
 害ノ關係ヲ有スルモノ、皆懇望スル所ナリ而シテ又一般ノ公益上ヨリ
 觀察スルハ此ノ事ノ如キハ敢テ直接ニ關係ヲ有スル人民ノ利害ニ
 止マラスシテ間接ニハ社會ノ公益ニ關係ヲ及ホスヘキモノナルヘキ
 ナ信スルナリ

抑モ水路開通ノコトハ陸路ノ開鑿ニ於ケルト何ソ擇ハンヤ蓋シ水運ノ
 便ハ陸運ノ利ニ優レルコトハ古今内外ノ實蹟ニ徴シテ明カナリ而シテ今

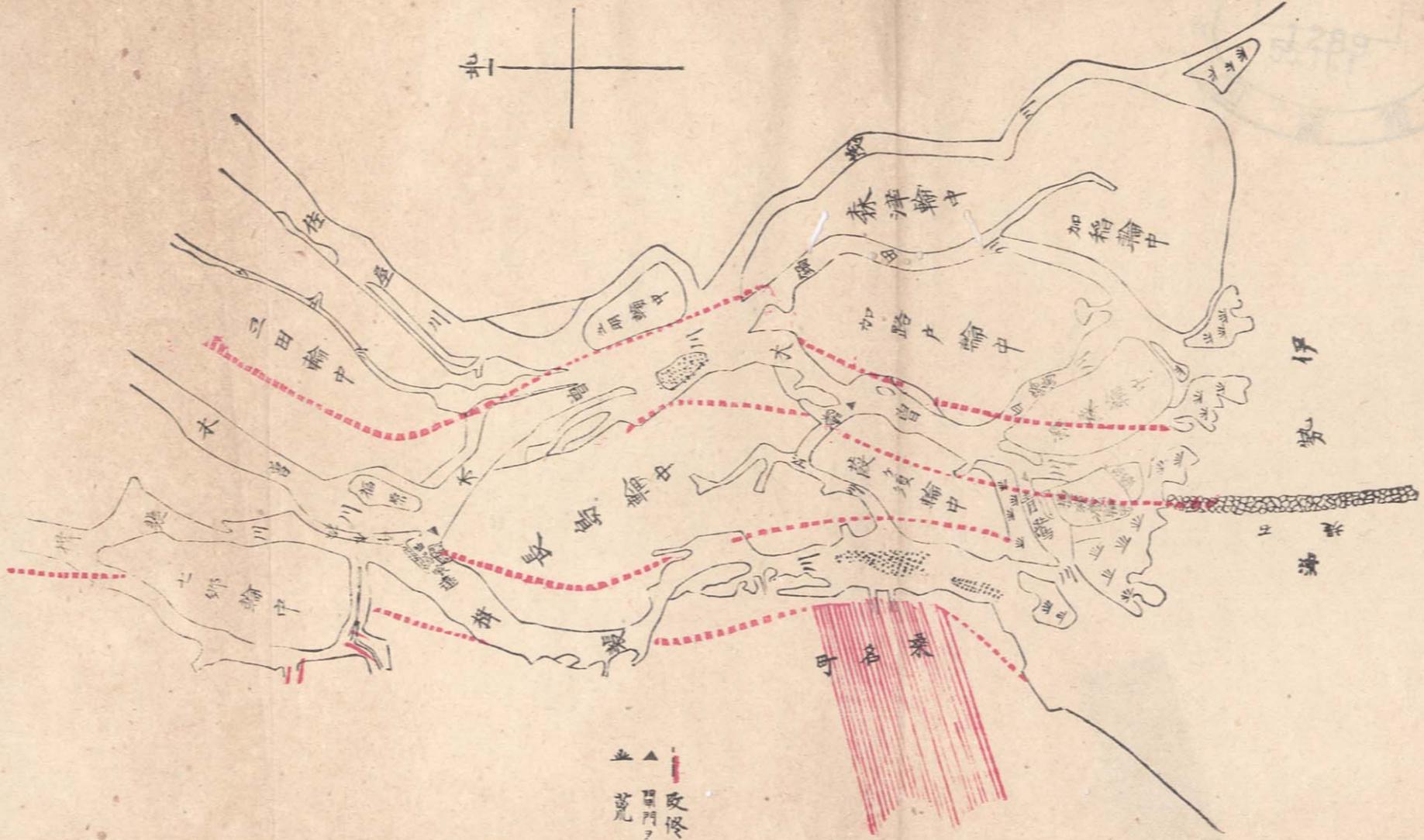
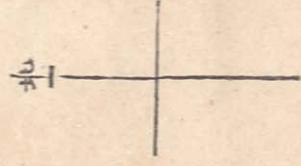
ヤ文化日進ノ秋ニ方リ陸上ニ在テハ道路ヲ改修シ又ハ新道ヲ開鑿シ
 且近來鉄道ノ布設殊ニ頻繁ナリ此ノ時ニ當テハ水上ニ在テモ亦新ニ
 水運ノ便ヲ開カサルヲ得ス豈ニ從來ノ水路ヲ壅塞スルノ理アランヤ
 然ラハ則曾テ木曾及ヒ揖斐ノ兩川ニ連絡セル青鷺鰻江及ヒ油嶋噴達
 ノ三江ヲ閉塞スルノ理由アルヲ看スト雖元來曩日政府ニ於テ始テ
 三大川改修ノ議起リシ日ニ在テハ當局者ハ全ク古來沿岸住民ノ患苦
 トナシタル洪水ノ厄難ヲ豫防スルノ一點ニ着眼セラレシヲ以テ爲メ
 ニ深ク水利ノ便否ヲ豫料セラル、ニ遑アラサリシモノナラン若シ其
 ノ當時ニ在テ已ニ今日ノ困厄ヲ惹起スヘキコトヲ豫知セラレタランニ
 ハ此ノ閘門設立ノコトハ河線改修ニ屬スル事業ノ一部分トシテ必ズ其
 ノ改修工事中ニ包括シテ其ノ計畫ヲナサレタルモノタルコトヲ信スル

今ヤ時期己ニ後レタルヲ顧ミスシテ此ノ請願ヲナスモノハ甚タ緩慢ニ失シタルカ如キ嫌ナキニアラス蓋シ今日ノ請願者ハ業己ニ其ノ當時ニ在テ是等ノ利害ノ關係ヲ考察シタルモ當時未ダ時運ノ到達セザリシカ爲メ今日マテ之ヲ請願スルノ機會ヲ得サリシナリ而シテ此ノ開門ノ設立ハ前段ニ於テ既ニ陳述シタルカ如ク單ニ木曾川沿岸住民ノ關係ナリト謂ハンヨリ寧ロ廣ク此ノ漕運ノ便ニヨリ直接又ハ間接ニ利害ヲ享有スヘキ社會公共ノ關係ナリト謂フノ優レルニ如カス故ニ其ノ費用ハ國庫ノ負担トセラレントナシテ希望ス且其ノ開門ハ必ス青鷲鰓江及ヒ油嶋喰遠ノ三江ニ設置セラレントテ切望ス如何トナレハ此ノ三江ハ其ノ最モ上流ニ在ル油嶋喰遠ト鰓江ト相距ルト凡ソ五十餘丁アリ又其ノ最モ下流ニアル青鷲ノ鰓江ヲ距ルト凡ソ三千餘丁アリ故ニ開門ハ其ノ各所ニ之ヲ設置スルニアラザレハ従前ノ

如ク交通ノ便利ヲ得ルヲ能ハサレハナリ

茲ニ假ニ開門ノ設立ニ關スル經費ヲ概算セシニ大凡一江分ハ金貳万餘圓ニシテ其ノ三江分ヲ合計スルモ畢竟金七八万圓ヲ超過スルヲナキヲ信ス果ソ本件ノ願意ヲ採納セラル、上ハ速ニ其ノ工事ヲ起サレ一日モ早ク斯民ヲシテ洽ク公益ヲ享有セシメ國民民福ヲ増進セシムルノ一助トナカレントテ懇願ノ至ニ堪ヘサルナリ

1289



▲ 改修堤防
▲ 關門要路
▲ 荒地

三田輪中

森津輪中

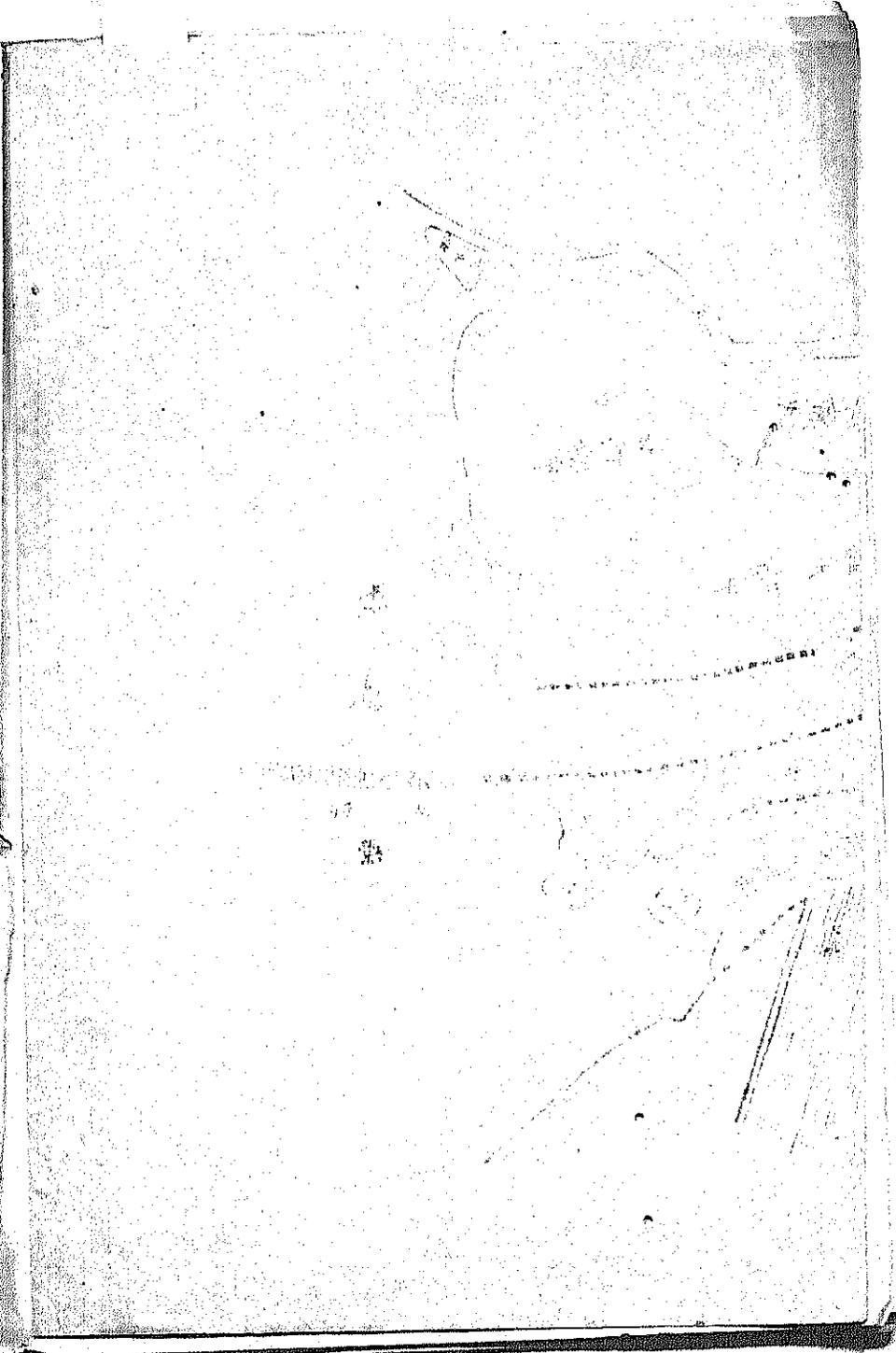
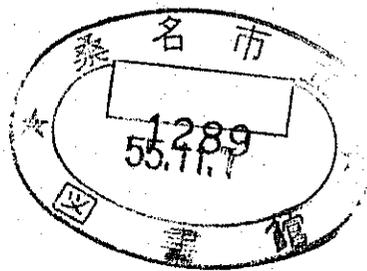
加稻輪中

加路戸輪中

會野

町名

伊勢



西
村
市
図
書
館

明治廿六年十二月八日印刷
明治廿六年十二月十三日發行
(非賣也)

印者
刷者
所者

三重縣津市立町三十八番地
三重縣津市北町十八番地
三重縣津市丸之内二番地

伊勢長村
新館貞次
社